

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-12044

(P2010-12044A)

(43) 公開日 平成22年1月21日(2010.1.21)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
A 4 7 J 37/07 (2006.01)	A 4 7 J 37/07	4 B 0 4 O
A 4 7 J 37/06 (2006.01)	A 4 7 J 37/06 3 6 1	
F 2 4 C 1/16 (2006.01)	F 2 4 C 1/16 B	

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2008-174885 (P2008-174885)	(71) 出願人	391036404
(22) 出願日	平成20年7月3日 (2008.7.3)		株式会社ロゴスコーポレーション
(11) 特許番号	特許第4388584号 (P4388584)		大阪府大阪市住之江区平林南2丁目11番1号
(45) 特許公報発行日	平成21年12月24日 (2009.12.24)	(74) 代理人	100104569
			弁理士 大西 正夫
		(72) 発明者	浜西 千尋
			大阪府大阪市住之江区平林南2丁目11番1号 株式会社ロゴスコーポレーション内
		Fターム(参考)	4B040 AA04 AA08 AC02 AD04 AE13 CA03 CB23 JA17

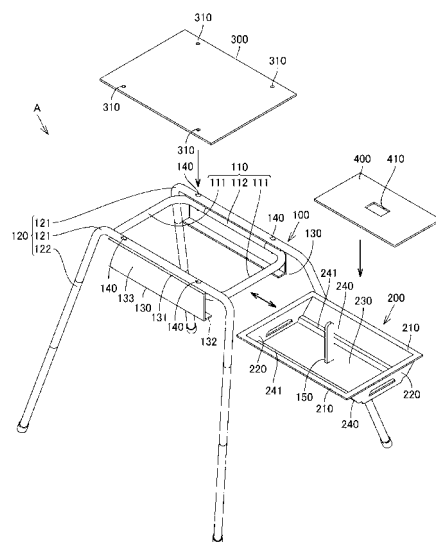
(54) 【発明の名称】 バーベキューグリル

(57) 【要約】

【目的】 本発明の目的は、持ち運びが便利のように小型軽量化を図ることができるバーベキューグリルを提供する。

【構成】 バーベキューグリルAは、グリル本体100と、このグリル本体100に着脱自在に取り付けられ且つ上面が開放された炭受け部200と、グリル本体100に取り付けられる鉄板300と、炭受け部200内に鉄板300と略平行に中空配置される略矩形形状のセラミック板400（断熱部材）とを備えている。このセラミック板400上で炭などが燃焼されることにより、鉄板300上の調理対象物が調理される。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

グリル本体と、このグリル本体に設けられ且つ少なくとも上面が開放された炭受け部と、この炭受け部の内底部位又は外底部位に配置され且つセラミックその他の遠赤外線放射物質が素材として使用された断熱部材とを具備したことを特徴とするバーベキューグリル。

【請求項 2】

前記断熱部材が前記炭受け部の内底部位に配置される場合の請求項 1 記載のバーベキューグリルにおいて、前記断熱部材が前記炭受け部の内底面に接触することなく浮かせて水平に中空支持されていることを特徴とするバーベキューグリル。

10

【請求項 3】

請求項 2 記載のバーベキューグリルにおいて、前記炭受け部は、その内底部位に設けられ且つ前記断熱部材の縁部下側に接触可能な支持手段を有していることを特徴とするバーベキューグリル。

【請求項 4】

請求項 1 記載のバーベキューグリルにおいて、前記グリル本体は脚部を有していることを特徴とするバーベキューグリル。

【請求項 5】

請求項 1 記載のバーベキューグリルにおいて、前記グリル本体と前記炭受け部とが一体化されていることを特徴とするバーベキューグリル。

20

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明はアウトドアで使用するバーベキューグリルに関する。

【背景技術】**【0002】**

この種のバーベキューグリルには、『少なくとも上面部が開放された炭受け部と、この炭受け部が取り付けられるフレームとを具備しており、前記炭受け部は、炭受け部の縁部に形成された下向きの受け溝にフレームの一部が嵌まり込むことでフレームに取り付けられることを特徴とするバーベキューグリル』がある（特許文献 1 参照）。

30

【0003】**【特許文献 1】特開 2003 - 61832****【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

このようなバーベキューグリルにおいては、持ち運びが便利のように小型軽量化を図ることが要請されている。

【0005】

しかしながら、上記従来例による場合、炭の燃焼エネルギーによる熱的損傷を受けないようにグリル全体に耐熱設計を施すことが必要不可欠であり、この面で小型軽量化を図ることが困難である。また、グリル全体が大型であると、熱効率を高くすることも困難であり、燃料代が高くなるという別の問題もある。

40

【0006】

本発明は上記事情に鑑みて創案されたものであり、小型軽量化を容易に図ることが可能なバーベキューグリルを提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】**【0007】**

本発明に係るバーベキューグリルは、グリル本体と、このグリル本体に設けられ且つ少なくとも上面が開放された炭受け部と、この炭受け部の内底部位又は外底部位に配置され且つセラミックその他の遠赤外線放射物質が素材として使用された断熱部材とを具備して

50

いる。

【０００８】

断熱部材については、炭受け部の内底面に接触することなく浮かせて水平に中空支持された形態にすることが望ましい。この場合、炭受け部については、その内底部位に設けられ且つ前記断熱部材の縁部下側に接触可能な支持手段を有したものとすると良い。

【０００９】

グリル本体については脚部を有したものを使用することができる。また、前記グリル本体と前記炭受け部とを一体化することも可能である。

【発明の効果】

【００１０】

本発明に係るバーベキューグリルは、炭受け部の内底部位又は外底部位に配置され且つセラミックその他の遠赤外線放射物質が素材として使用された断熱部材を備えていることから、炭受け部に入れられた炭等が燃焼して発生した熱が断熱部材により遮蔽され、その分だけ炭受け部又はグリル本体の底部につき熱的影響を受ける度合いが小さくなる。よって、炭受け部又はグリル本体の底部の耐熱処理の軽減したり、炭受け部又はグリル本体の底部と炭等の燃焼箇所との間の空間を小さくしたりすることができ、その結果、炭受け部又はグリル本体の小型軽量化を図ることが可能になる。しかも断熱部材が加熱されるに伴って遠赤外線が放射され、調理対象の肉、魚、野菜等の有機物に吸収される。その結果、調理対象物の加熱エネルギーが大きくなり、その分だけ熱効率が高くなり、燃料代を安くすることが可能になる。よって、断熱部材を用いない場合と比べて、炭等の燃料材を少なくすることができ、炭受け部又はグリル本体の底部につき熱的影響を受ける度合いを小さくすることができ、この点でも、上述の通り、炭受け部及びグリル本体の小型軽量化を図ることができる。

【００１１】

上記バーベキューグリルについて、断熱部材が炭受け部の内底面に接触することなく浮かせて水平に中空支持された構成となっている場合、炭等が燃焼して発生した熱が、断熱部材と、炭受け部の内底面と断熱材との間の空気層との双方により遮蔽され、その結果、熱的遮蔽効果が高くなる。よって、炭受け部の底面につき熱的影響を受ける度合いが小さくなり、これに伴って一層の小型軽量化を図ることが可能になる。

【００１２】

上記炭受け部について、その内底部位に設けられ且つ前記断熱部材の縁部下側に接触可能な支持手段を有している場合、炭受け部に対して断熱部材を容易に取り外しすることが可能であることから、使い勝手が良いという効果も有する。

【発明を実施するための最良の形態】

【００１３】

以下、本発明の実施の形態に係るバーベキューグリルを下記図面を参照しつつ説明する。図１は本発明の実施の形態に係るバーベキューグリルの概略的分解斜視図、図２は本発明の実施の形態に係るバーベキューグリルの概略的側面図である。

【００１４】

図１及び図２に示すバーベキューグリルＡは、グリル本体１００と、このグリル本体１００に着脱自在に取り付けられる上面が開放された平面視略矩形状の炭受け部２００と、グリル本体１００に取り付けられる鉄板３００と、炭受け部２００内に鉄板３００と略平行に中空配置される略矩形状のセラミック板４００（断熱部材）とを備えている。以下、各構成部品について詳しく説明する。

【００１５】

グリル本体１００は、平面視略口字形状のベース部１１０と、このベース部１１０の両長辺に各々取り付けられた下向き略凹字形状の一对の脚部１２０と、ベース部１１０の両長辺に脚部１２０と共に各々取り付けられた側面視略コ字状の金属板材である一对のガイド部１３０を有している。

【００１６】

ベース部 1 1 0 は、パイプ材を折曲した 2 つの略凹字形状のベース凹字部材 1 1 1 と、このベース凹字部材 1 1 1 の両端部を各々接続する直線状のパイプ材である 2 本のベース中間部材 1 1 2 とから構成されている（なお、図 1 ではベース中間部材 1 1 2 は 1 本のみが見えている）。ベース凹字部材 1 1 1 の中間部はベース部 1 1 0 の短辺を、ベース凹字部材 1 1 1 の両端部及びベース中間部材 1 1 2 はベース部 1 1 0 の長辺をそれぞれ形成している。

【 0 0 1 7 】

各脚部 1 2 0 は、パイプ材を折曲した下向き略凹字形状の脚部凹字部材 1 2 1 と、この脚部凹字部材 1 2 1 の両端部に接続される 2 本の脚部連結部材 1 2 2 とを有している。

【 0 0 1 8 】

各脚部凹字部材 1 2 1 の中間部はベース部材 1 1 0 の両長辺上にガイド部 1 3 0 の上辺部 1 3 1 と共にボルト 1 4 0 で取り付けられる。これにより脚部 1 2 0 がベース部材 1 1 0 に取り付けられる。また、脚部凹字部材 1 2 1 の中間部はベース部 1 1 0 の長辺より若干長く設定されている。このため、脚部凹字部材 1 2 1 の両端部がベース部 1 1 0 に干渉しないようになっている。また、脚部凹字部材 1 2 1 の中間部上には鉄板 3 0 0 が載置され、ボルト 1 4 0 で取り付けられる。なお、鉄板 3 0 0 の周縁部には、ボルト 1 4 0 が嵌まり込む 4 つの位置決め用の開口 3 1 0 が開設されている。

【 0 0 1 9 】

各脚部連結部材 1 2 2 は 2 本のパイプ材が長さ方向に連結されたものである。この 2 本のパイプ材は着脱可能になっており、その一方を他方から取り外すことにより又は双方を脚部凹字部材 1 2 1 から取り外すことにより、バーベキューグリル A の高さ調節が可能になっている。具体的には、脚部連結部材 1 2 2 の 2 本のパイプ材が脚部凹字部材 1 2 1 に連結されている場合には、バーベキューグリル A は立食状態のバーベキューに使用されるハイスタンド型となる。脚部連結部材 1 2 2 の先端側（一方）のパイプ材が基端側（他方）のパイプ材から取り外されている場合には、バーベキューグリル A は、地面等に座った状態で行われるバーベキューに使用されるロースタンド型となる。更に、脚部連結部材 1 2 2 の 2 本のパイプ材を脚部凹字部材 1 2 1 の両端部から取り外した場合（脚部連結部材 1 2 2 を使用しない場合）には、バーベキューグリル A をテーブル上等に載置して使用される卓上型となる。

【 0 0 2 0 】

各ガイド部 1 3 0 は、上辺部 1 3 1 と、下辺部 1 3 2 と、上辺部 1 3 1 と下辺部 1 3 2 との間を連結する中間部 1 3 3 とを有し、上辺部 1 3 1 及び下辺部 1 3 2 が中間部 1 3 3 に対して略直角に同方向に折り曲げられた形状となっている。

【 0 0 2 1 】

上辺部 1 3 1 は、脚部 1 2 0 の脚部凹字部材 1 2 1 の中間部とベース部材 1 1 0 の長辺との間に挟まれた状態で、脚部凹字部材 1 2 1 の中間部と共にベース部材 1 1 0 の長辺にボルト 1 4 0 で取り付けられる。

【 0 0 2 2 】

中間部 1 3 3 の幅寸法は、ベース部 1 1 0 を構成するパイプ材の直径より大きく設定されている。このため、ガイド部 1 3 0 の下辺部 1 3 2 とベース部 1 1 0 との間には隙間が形成される。

【 0 0 2 3 】

下辺部 1 3 2 は炭受け部 2 0 0 のフランジ部 2 1 0 をスライド自在に係止する係止片である。

【 0 0 2 4 】

炭受け部 2 0 0 は、金属板材がプレス成型されることにより作成された平面視略矩形形状の薄皿体であって、略矩形形状の底板 2 3 0 と、この底板 2 3 0 の長さ方向の両端に略直角に立設された逆台形状の両側板 2 2 0 と、底板 2 3 0 の幅方向の両端上に傾斜状態で立設され且つ両側板 2 2 0 の両端同士を各々接続する両傾斜板 2 4 0 と、この両傾斜板 2 4 0 の縁部に各々外側に向けて設けられた一対のフランジ部 2 1 0 とを有している。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 5 】

フランジ部 2 1 0 はガイド部 1 3 0 の下辺部 1 3 2 上に載置され、係止される。これにより炭受け部 2 0 0 がグリル本体 1 0 0 にスライド可能に取り付けられる。

【 0 0 2 6 】

両傾斜板 2 4 0 には一对の段差部 2 4 1 が各々設けられている。この段差部 2 4 1 がセラミック板 4 0 0 の縁部を下側から支持する。これにより、セラミック板 4 0 0 が炭受け部 2 0 0 内で中空支持される。

【 0 0 2 7 】

底板 2 3 0 の中心部にはガード棒 1 5 0 が取り付けられている。このガード棒 1 5 0 の高さ寸法は、底板 2 3 0 の面上からベース凹字部材 1 1 1 までの垂直距離よりも大きく、底板 2 3 0 の面上から脚部凹字部材 1 2 1 の中間部上の鉄板 3 0 0 の下面までの垂直距離よりも小さくなっている。このため、炭受け部 2 0 0 がグリル本体 1 0 0 から引き出されると、ガード棒 1 5 0 がベース部 1 1 0 のベース凹字部材 1 1 1 に当接し、炭受け部 2 0 0 の移動をストップさせる。このため、炭受け部 2 0 0 を引き出しすぎて落下するという事故を未然に防止することができる。

【 0 0 2 8 】

セラミック板 4 0 0 は厚さ 5 mm ~ 2 0 mm のセラミック板を用いている。このセラミック板 4 0 0 にはガード棒 1 5 0 が挿入される挿入孔 4 1 0 が開設されている。

【 0 0 2 9 】

このような構成のバーベキューグリル A は、炭受け部 2 0 0 の段差部 2 4 1 上に載置され、当該炭受け部 2 0 0 内に中空支持されたセラミック板 4 0 0 上に炭を載せた状態で、バーベキューが行われる。そして、炭を追加する場合には、炭受け部 2 0 0 のフランジ部 2 1 0 をガイド部 1 3 0 の下辺部 1 3 2 に沿ってスライドさせ、炭受け部 2 0 0 を鉄板 3 0 0 の下から引き出す。この状態で炭を追加する。炭が追加できたならば、炭受け部 2 0 0 を元の位置、すなわち鉄板 3 0 0 の下にスライドして戻す。

【 0 0 3 0 】

なお、使用後の洗浄等のために炭受け部 2 0 0 をガイド部 1 3 0 から完全に引き出すときには、炭受け部 2 0 0 を引き出しながら斜め上方向に傾けて、ガード棒 1 5 0 とベース凹字部材 1 1 1 との接触を回避させることで行う。

【 0 0 3 1 】

上述したバーベキューグリル A による場合、セラミック板 4 0 0 が炭置きとして炭受け部 2 0 0 内に鉄板 3 0 0 と略平行に中空配置されている。このため、炭の燃焼により発生する熱がセラミック板 4 0 0 及びセラミック板 4 0 0 と炭受け部 2 0 0 の底板 2 3 0 との間に形成される空気層により遮断され、その分だけ炭受け部 2 0 0 の底板 2 3 0 に対する熱的影響を受ける度合いが小さくなる。よって、炭置きであるセラミック板 4 0 0 と炭受け部 2 0 0 の底板 2 3 0 との距離を小さくすることができ、炭受け部 2 0 0 の薄型化を図ることができ、その結果、コンパクトで持ち運びが容易なバーベキューグリル A を得ることができる。

【 0 0 3 2 】

しかも、セラミック板 4 0 0 上で炭を燃焼させることにより、当該セラミック板 4 0 0 から遠赤外線が放射され、鉄板 3 0 0 上の調理対象の肉、魚、野菜等の有機物に吸収される。その結果、調理対象物の加熱エネルギーが大きくなり、その分だけ熱効率が高くなるため、セラミック板 4 0 0 を設置しない場合と比べて、少ない炭で調理対象物を調理することができる。また、炭の量を減らすことができることから、当該炭の燃焼により発生する熱が炭受け部 2 0 0 の底板 2 3 0 に与える熱的影響を低減することができる。よって、この点でも、上述の通り、炭受け部 2 0 0 の薄型化を図ることができる。

【 0 0 3 3 】

なお、上述したバーベキューグリルは、特許請求の範囲の趣旨に適う限り任意に設計変更することが可能である。以下、各構成部品について詳しく述べる。

【 0 0 3 4 】

セラミック板４００は、セラミックその他の遠赤外線放射物質が素材として使用された断熱部材である限りどのようなものを用いても構わない。前記素材としては、耐熱性を有し且つ表面温度を高くすることにより遠赤外線エネルギーが多く放射される天然又は人工のセラミック類であることが好ましいが、これに限定されるものではない。前記素材の他の例としては、ガラス類等がある。また、この断熱部材は、板状体に限定されるものではなく、例えば、セラミック繊維織布や網状のセラミック板等を用いることができる。

【００３５】

また、上記実施例では、セラミック板４００は炭受け部２００内に中空支持されとしたが、これに限定されるものではない。例えば、セラミック板４００を炭受け部２００の底板２３０上に設置するようにしても良い。この場合、炭受け部２００に段差部２４１等の支持手段を設ける必要がないので、炭受け部２００の構成を簡単化することができる。

10

【００３６】

また、セラミック板４００は炭置きであるとしたが、これに限定されるものではない。従って、セラミック板４００の上方に網等の炭置きを配置することも可能であるし、セラミック板４００は底板２３０の下側に取り付けることも可能である。特に、グリル本体が炭受け部２００を収容するボックス形状である場合には、セラミック板４００を底板２３０の下側に取り付けることによって、セラミック板４００により炭の燃焼により発生する熱を遮断し、炭受け部２００下のグリル本体の底部に与える熱的影響を低減することができる。その結果、当該グリル本体の薄型化を図ることができる。

20

【００３７】

炭受け部２００については、炭の他に薪等の燃料材を入れることができる箱状体である限り、任意に設計変更することが可能である。

【００３８】

上記実施例では、セラミック板４００等の断熱部材を支持する支持手段として、炭受け部２００に段差部２４１が設けられているとしたが、これに限定されるものではない。即ち、前記支持手段としては断熱部材を支持し得るものである限り任意に設計変更することが可能である。例えば、炭受け部２００の両傾斜板２４０又は両側板２２０の一部をカットし、内側に折り曲げることにより作成された係止片とすることも可能である。また、断熱部材が上述したセラミック繊維織布である場合には、ビスなどを用いて炭受け部２００に貼付することも可能である。

30

【００３９】

グリル本体１００については、炭受け部２００が設置可能なものである限り任意に設計変更することが可能である。従って、グリル本体は炭受け部２００を収容するボックス形状とすることができる。また、グリル本体と炭受け部とを一体化し、炭などの燃料材が入られる箱状体とすることが可能である。この一体化したものに脚部を設けるか否かは任意に選択設定可能である。

【００４０】

また、ガイド部１３０については、下辺部１３２同士を連結して板状体とすることにより、炭受け部２００からの熱を遮断することができる。また、前記板状体上に凹状の水溜部を形成することにより、熱遮断性を向上させることもできる。

40

【００４１】

鉄板３００は網等の食材を載せることができる調理具に置換可能である。

【００４２】

なお、本発明は、ハイスランド型のバーベキューグリルだけでなく、ロースランド型や卓上型等のバーベキューグリルに適用可能である。なお、各構成部品の形状や数については同様の機能を実現し得る限り任意に設計変更可能である。

【図面の簡単な説明】

【００４３】

【図１】本発明の実施の形態に係るバーベキューグリルの概略的分解斜視図である。

【図２】本発明の実施の形態に係るバーベキューグリルの概略的側面図である。

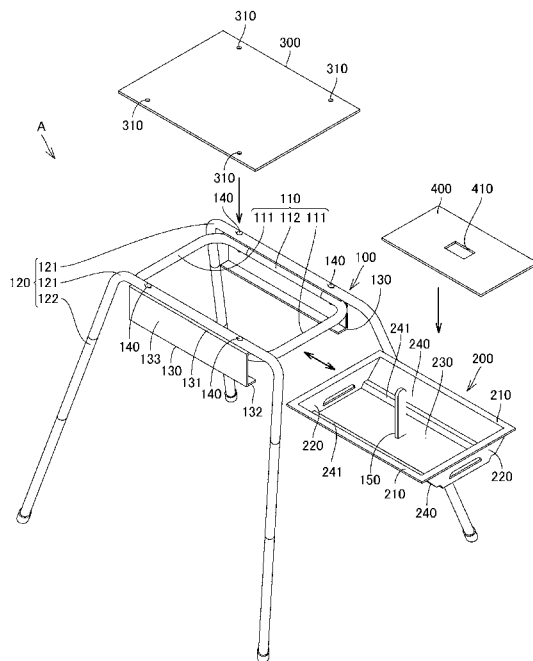
50

【符号の説明】

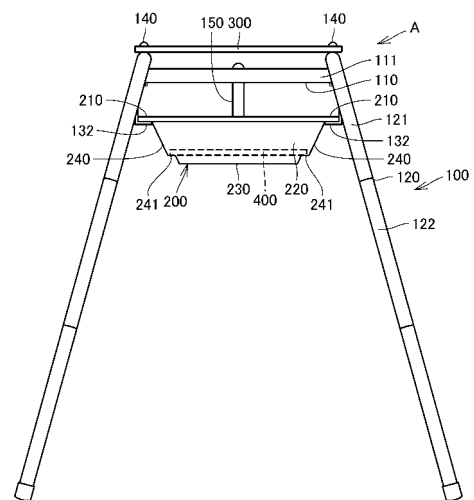
【 0 0 4 4 】

1 0 0	グリル本体
1 2 0	脚部
2 0 0	炭受け部
2 3 0	底板
2 4 1	段差部（支持手段）
4 0 0	セラミック板（断熱部材）

【 図 1 】



【 図 2 】



【手続補正書】

【提出日】平成21年7月24日(2009.7.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

グリル本体と、このグリル本体に着脱自在に取り付けられる少なくとも上面が開放された炭受け部と、この炭受け部の内底部位に配置され且つセラミックその他の遠赤外線放射物質が素材として使用された断熱部材とを具備しており、前記断熱部材は炭受け部の内底面に接触することなく浮かせて水平に中空支持されており、前記炭受け部の対向する縁部にはフランジ部が設けられており、前記グリル本体には前記フランジ部が係止されるガイド部が設けられており、前記グリル本体には前記フランジ部が係止されるガイド部が設けられており、前記炭受け部はガイド部に沿ってスライド可能になっており、グリル本体に設けられたパイプ材を折曲、接続して構成したベース部と、炭受け部に立設されたガード棒とが設けられ、前記ガード棒は、炭受け部をグリル本体に取り付けると、先端が前記ベース部より上方に位置し、前記断熱部材は前記ガード棒を挿入される挿入孔が開設されていることを特徴とするバーベキューグリル。

【請求項 2】

請求項 1 記載のバーベキューグリルにおいて、前記炭受け部は、その内底部位に設けられ且つ前記断熱部材の縁部下側に接触可能な支持部を有していることを特徴とするバーベキューグリル。

【請求項 3】

請求項 1 記載のバーベキューグリルにおいて、前記グリル本体は脚部を有していることを特徴とするバーベキューグリル。

【請求項 4】

請求項 1 記載のバーベキューグリルにおいて、前記グリル本体と前記炭受け部とが一体化されていることを特徴とするバーベキューグリル。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明に係るバーベキューグリルは、グリル本体と、このグリル本体に着脱自在に取り付けられる少なくとも上面が開放された炭受け部と、この炭受け部の内底部位に配置され且つセラミックその他の遠赤外線放射物質が素材として使用された断熱部材とを具備しており、前記断熱部材は炭受け部の内底面に接触することなく浮かせて水平に中空支持されており、前記炭受け部の対向する縁部にはフランジ部が設けられており、前記グリル本体には前記フランジ部が係止されるガイド部が設けられており、前記グリル本体には前記フランジ部が係止されるガイド部が設けられており、前記炭受け部はガイド部に沿ってスライド可能になっており、グリル本体に設けられたパイプ材を折曲、接続して構成したベース部と、炭受け部に立設されたガード棒とが設けられ、前記ガード棒は、炭受け部をグリル本体に取り付けると、先端が前記ベース部より上方に位置し、前記断熱部材は前記ガード棒を挿入される挿入孔が開設されている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００８】

炭受け部は、その内底部位に設けられ且つ前記断熱部材の縁部下側に接触可能な支持手段を有したものとするとよい。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１０】

本発明に係るバーベキューグリルは、炭受け部の内底部位又は外底部位に配置され且つセラミックその他の遠赤外線放射物質が素材として使用された断熱部材を備えていることから、炭受け部に入れられた炭等が燃焼して発生した熱が断熱部材により遮蔽され、その分だけ炭受け部又はグリル本体の底部につき熱的影響を受ける度合いが小さくなる。よって、炭受け部又はグリル本体の底部の耐熱処理を軽減したり、炭受け部又はグリル本体の底部と炭等の燃焼箇所との間の空間を小さくしたりすることができ、その結果、炭受け部又はグリル本体の小型軽量化を図ることが可能になる。しかも断熱部材が加熱されるに伴って遠赤外線が放射され、調理対象の肉、魚、野菜等の有機物に吸収される。その結果、調理対象物の加熱エネルギーが大きくなり、その分だけ熱効率が高くなり、燃料代を安くすることが可能になる。よって、断熱部材を用いない場合と比べて、炭等の燃料材を少なくすることができるから、炭受け部又はグリル本体の底部につき熱的影響を受ける度合いを小さくすることができる。この点でも、上述の通り、炭受け部及びグリル本体の小型軽量化を図ることができる。